

2-3 自然環境の現状と課題

(1) 地形



図2-18 空から見た浜松市

本市域は、東西 52km、南北 73km、面積 1,511.17km²で全国第2位の面積です。その周囲は、北は赤石山地、東は天竜川、南は遠州灘、西は浜名湖があり異なった環境となっています。さらに北から南に向かって天竜川が流れ遠州灘へ注いでいます。地形は、市北部の中山間地、扇状地に広がる天竜川下流域の平野部、河岸段丘の三方原台地、そして浜名湖から太平洋の沿岸部によって構成されています。また本市は、天竜奥三河国定公園、浜名湖県立自然公園、奥大井県立自然公園などの豊かな自然環境に恵まれ、数々の景勝地を生み出しています。市域の多くは天竜川の流域にありますが、市の西部は浜名湖（都田川）の流域に属しており、それぞれの流域圏内における結びつきが強いという特徴があります。



図2-19 浜松市の地形、河川及び自然公園など
資料：地形図（国土地理院）

(2) 気象

本市の気候は比較的温暖ですが、冬は「遠州のからっ風」と呼ばれる北西の強い季節風が吹き、気温以上に寒く感じられます。この強い風は広大な遠州灘海岸の砂丘に美しい風紋をつくり出しています。また、年間の日照時間は、2,200時間以上を記録しており、これは全国的にみてもトップクラスの水準です。今後は、こうした地域特性を活用した新エネルギーの利活用の推進を図る必要があります。

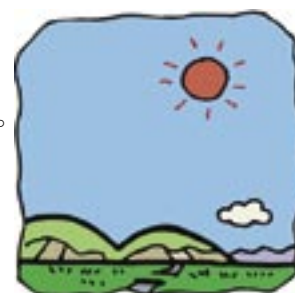


表2-17 気象状況

区分 年	平均 気温 (°C)	最高 気温 (°C)	最低 気温 (°C)	平均 湿度 (%)	平均 風速 (m/s)	最大 風速 (m/s)	風向	降水量 (mm)	日照 時間 (時間)
平成9年	16.3	34.6	-4.3	66	3.4	13.4	南南東	1,528.0	2,421.6
平成10年	17.4	36.5	-1.8	71	3.6	16.0	西北西	2,340.5	1,904.4
平成11年	16.8	34.2	-4.1	72	3.4	14.5	北西	1,721.0	2,264.7
平成12年	16.7	36.7	-1.4	73	3.4	13.5	北西	1,676.5	2,255.1
平成13年	16.5	39.3	-2.4	72	3.4	12.8	北西	1,598.5	2,328.1
平成14年	16.7	36.4	-1.6	70	3.3	13.0	西北西	1,441.0	2,227.1
平成15年	16.3	36.6	-2.8	70	3.3	12.7	西	2,007.5	1,980.1
平成16年	17.4	37.2	-1.7	66	3.4	12.8	南東	2,340.0	2,334.0
平成17年	16.1	34.6	-2.1	66	3.4	11.4	東北東	1,212.5	2,373.4
平成18年	16.4	36.2	-2.3	68	3.2	13.4	西北西	1,828.5	1,990.5
上記の平均	16.7	36.2	-2.5	69.4	3.4	13.4	—	1,769.4	2,207.9

資料：浜松特別地域気象観測所調べ

(3) 動植物

1) 概況

本市の範囲は、南アルプス南端から太平洋に至るため、市の北部と南部ではかなり異なる自然環境となっており、動植物の生息に関しても地域的に多様な広がりが見られます。

これらを区ごとに見た場合、天竜区は、夏季は高温で、冬季は低温が続く内陸型の気候ですが、準多雨地帯で植物や動物の生育に適した地となっています。

植物は大部分が、天竜美林として知られるスギ、ヒノキの人工林で、一部に亜高山帯の自然植生と落葉広葉樹林域が分布しています。

動物は、溪流のアマゴ、ヤマメなどの魚類をはじめ、山中には国の天然記念物に指定されているカモシカや、ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマなどが生息するほか、北区と天竜区の境の枯山地区には絶滅危惧種^(*)のギフチョウが確認されています。



【山並み】



【天竜美林】



【ギフチョウ】

西区・北区は、浜名湖を中心として温暖な気候と変化に富んだ地形を有しています。遠州灘海岸には海浜植物や絶滅危惧種のコアジサシが、台地斜面には里山^(*)の緑が見られます。また、汽水湖である浜名湖は塩分濃度も海水に近く、水深が浅く、ウナギなどの魚類を中心に650を越える魚介類が確認されているほか、各種野鳥の飛来地としても有名です。さらに、佐鳴湖周辺の里山には自然が残されており動植物の生息域として重要な役割を果たしています。



【浜名湖】



【ウナギ】



【浜名湖の野鳥】

中区・南区・東区・浜北区は、大部分が都市部となっていますが、南区の南部が面している遠州灘海岸では、クロマツの防潮林やハマヒルガオなどの海浜植物のほか、絶滅危惧種のアカウミガメやコアジサシが見られます。さらに、天竜川・馬込川河口では各種野鳥が確認できます。



【遠州灘海岸】



【防潮林】



【ハマヒルガオ】

このように、本市は合併により市域が大きく拡大したことから、多様な動植物の生息・生育地となっています。

しかし、本市における動植物に関する調査は十分ではなく、実態が把握されていません。従って、今後は、多様な生物の生息実態についての調査・研究を加えながら、都市計画・土地利用との調整を図り、野生動植物の生息場を確保することが必要となります。

一方、ニホンイノシシなどによる農作物などへの被害や、ブラックバスなどに代表される外来生物^(*)による生態系への影響も懸念されるようになっており、有効な防除・管理対策を講じることが求められています。



【カモシカ】



【アカウミガメ】



【コアジサシ】

(4) 各地区の特有な環境資源

本市の各地区に分布する主な動植物や自然が豊かな場所・施設などの環境資源について、図2-20に示します。

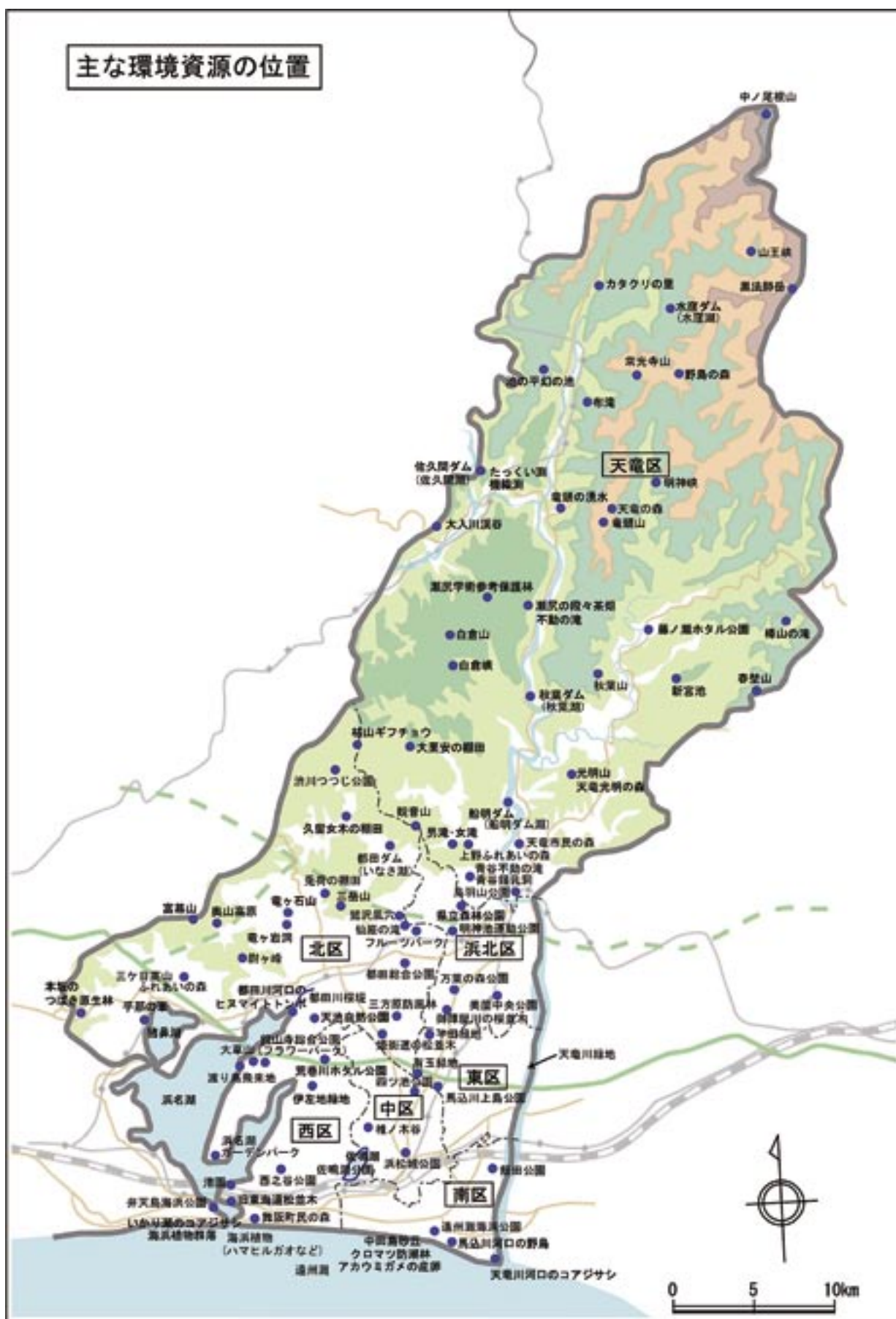


図2-20 主な環境資源の位置図

参考：天竜川・浜名湖環境共生計画
文化財については図2-21 (P34) に詳述します。